

天王寺方楽人の江戸参仕について

出口実紀

はじめに

江戸時代、三方楽人は京都、奈良、大坂の各地域を本拠地として、雅楽の演奏活動を行ってきた。南都方、天王寺方については、禁裏で行われる行事においても、京都方とともに参仕し、三方楽所としての役割を担っていた。それらの参仕状況は、天王寺方楽家の林家による『禁裏東武並寺社舞楽之記』（以下、『禁東記』と略す）に記録されている。

『禁東記』から、天王寺方は江戸における幕府関係の法要にも参仕していることが分かり、天王寺方楽人の活動は、大きく四天王寺、禁裏、江戸の三地域となる。『禁東記』は禁裏における参仕記録を中心としながらも、その他、京都の寺社、江戸での参仕をも記録している。そのため、この資料を用いて江戸での活動内容をみるには、まず全記録から江戸での記録を整理する必要があるだろう。そこで、本稿では江戸における参仕状況の整理を行い、天王寺方がどのような活動をしていたのか、その一端を探ろうと思う。

1. 江戸での参仕状況

『禁裏記』によると、三方楽人が江戸へ赴いた時期、回数は表1のとおりである。219年間で江戸での参仕は、13年分41回であった。これによると、楽人達が江戸へ下向するのは1年間に1回という場合がほとんどである。享保3年(1718)のように、数カ月開けて数回下向する場合は稀である。本来、楽人たちは本拠地となる四天王寺や禁裏での参仕が活動の中心となるため、長期や複数回にわたる下向は難しい。参仕の期間も、短いものでは1日だけという場合もあるが、多くは約

1カ月の滞在の間に、二つの法要や行事に参仕している。

江戸での行事は、江戸城本丸、二の丸、増上寺、日光山、東叡山⁽¹⁾で行われ、江戸城とその他の場所では、行事の目的がはっきりと分けられている。江戸城では将軍による舞楽御上覧や朝鮮通信使の接待、増上寺や日光山では歴代将軍の御忌法要という二つの目的である。御忌法要については、219年の間に、徳川家康、第4代将軍徳川家綱(厳有院)、第5代将軍徳川綱吉(常憲院)、第6代将軍徳川家宣の父である徳川綱重(清揚院)、第6代将軍徳川家宣(文紹院)、第7代将軍徳川家継(有章院)に関する法要が執り行われている。

41回にわたる江戸下向のなかでも、とりわけ規模の大きい行事であったのが、延享2年(1745)3月13日から17日まで行われた徳川家康の130回忌に伴う紅葉山法華八講である(表1の11a-c)。記録には、「舞楽人四十五人菩薩人_マ南都右方人四人日光楽人二人紅葉山楽人十人」と、法華八講に携わった楽人が明記されている。四天王寺における参仕を記録した『四天王寺舞楽之記』（以下、『四天記』と略す）の同年2月22日「聖霊会」の箇所には、「今年三月十七日権現様百三十年百/五十回忌御取越御城於紅葉山法/華八講有之 楽所四十五人参勤/仍而昌方、昌名、兼高、廣基、兼/陰、廣統以上六人ニテ勤前代未聞/之事也」という注記があり、ほとんどの天王寺方楽人が下向していることが分かる。聖霊会は、四天王寺の年中行事の中でも毎年欠かさず行っていた重要な行事であったことから、天王寺方にとって最重要であったと考えられる。その聖霊会に参仕せず江戸へ下向したということから、この法華八講がいかに大規模で、三方楽所にとっても重要な法要であったかが分かるだろう。

『四天記』の記録からも明らかのように、江戸下向には全て

の天王寺方楽人が召集されるわけではなく、大坂に残る楽人と江戸へ下向する楽人とに分かれていた。『四天記』には、下向による人数不足から、舞楽は舞を付けず楽のみで行った本拠地での記録⁽²⁾や、下向した楽人の名前などが詳細に記されている。では、江戸へ下向した天王寺方楽人はどのような者たちであったのだろうか。江戸での参仕者をまとめたものが表2である。

天王寺方の参仕者をみていくと、とりあえず藺家、林家、東儀家、岡家の天王寺方四楽家すべてが江戸での奏楽に携わっている。楽家別の人数をみると、藺家10人、林家15人、東儀家(安倍姓東儀家含む)33人、岡家19人となる。禁裏への参仕に比べるとその人数は少ないものの、各楽家とも本家・分家に関わらず江戸へ下向している。しかし、藺家だけは一つの分家筋が管方、舞人のいずれにも加わっておらず、天王寺方楽家の中で、この一分家筋だけが江戸へ下向していなかった⁽³⁾。

その他、林家は右舞の舞人と管方の両方を勤める楽人が多かったのに対し、東儀家は、東儀本家と《振鈴》において舞人を勤めることの多かった東儀兼佐(1651～1730)を含む分家筋が、右舞のみに携わり、管方を勤めることはなかった。それ以外の、東儀家分家筋については、管方だけを勤めていることから、家筋によって役割が区別されていたのではないかと考えられる。

では、江戸を拠点とする紅葉山楽人はどのような立場であったのだろうか。結論から言うと、天王寺方と同じく右方の管方を勤めていた。彼らは、江戸幕府の法要における奏楽を担うため、寛永19年(1642)に三方楽所から江戸へ居住した楽人で構成される。天王寺方から紅葉山楽人となったのは、藺家、東儀家、安倍姓東儀家、岡家であり、三方の中でも比較的多くの家が紅葉山楽人となっている。そのためか右方の参仕には、天王寺方と天王寺方を出自とする紅葉山楽人を中心に構成されている。

そして、紅葉山楽人たちは楽人として参仕するばかりであり、舞人を勤めることは一度もなかった。右舞を舞うのは、禁裏でも右舞を担当する林家と東儀家である。この林家と東儀

家は、天王寺において右舞を勤める家であり、禁裏においても右舞の家としての地位を確立している[出口 2011b]。

2. 上演曲目と番舞の概念

では、実際に各法要、行事ではどのような曲目が行われていたのかをみてみよう。各法要、行事で行われた曲目を整理したのが表3である。曲目からは、舞楽を伴う法要や行事において下向していることが分かる。

式次第をみてみると、法要の場合では、《一曲》を奏している間に着座し、《振鈴》が始まって、二番(つがい)から多い時には四番の舞があり、最後は《陵王》・《納曾利》による走舞⁽⁴⁾を一番行い、《長慶子》を奏している間に退出するという流れが一般的であった。用いる舞楽についても、《万歳楽》・《延喜楽》、《甘州》・《林歌》といった、禁裏の行事においても頻繁に行う舞楽が多く目立つ。それ以外では、左舞《太平楽》を加える場合が多く、《太平楽》の番舞としては、《長保楽》や《古鳥蘇》、《陪臚》などが挙げられている。これは観賞が目的ではなく、法要中の供養舞としての性格が強く、珍しい曲より法要で演じ慣れているものの方が良かったという演者側の思惑があったと思われる。

一方、御上覧では、将軍が舞楽をご覧になるという舞楽観賞の行事である。そのため、《振鈴》から始まり、六つの番舞を行い、最後は同じく《陵王》・《納曾利》による走舞で締めくくり、《長慶子》により退出という構成になっている。曲目についても、《春庭花》や《白濱》など法要では一度も行わなかった舞楽を用いている点や、《八仙》のように、禁裏でも行うことの少ない⁽⁵⁾舞楽を行っているのが特徴的である。これは鑑賞が目的で、珍しい曲を行うことが必要とされたからであろう。

特に江戸で多く行われた舞は、《陵王》25回・《納曾利》24回の番舞であった。次いで多かったものは、《迦陵頻》・《胡蝶》の童舞で、その回数は21回である。右舞に関しては、納曾利24回、胡蝶21回、延喜楽16回、狛柀12回、林歌9回、長保楽、貴徳7回、登殿楽6回、古鳥蘇5回、白濱4回、胡徳楽3回、仁和楽、八仙2回、新鞆鞆、蘇利古1回という上演状

況がみられる。

禁裏と江戸での比較を行うと、禁裏では《延喜楽》、《納曾利》に次いで多く行われる《地久》が、江戸では1度しか行われていないことが判明した。また、江戸では童舞を多く用いるのに対し、禁裏では219年間に58回（主に舞御覧の時）と決して頻繁に行う曲目とはいえない。つまり、江戸における舞楽は、《陵王》・《納曾利》の走舞と、《迦陵頻》・《胡蝶》の童舞が欠かせない曲目であると考えられる。これは、関西ではいつでも童舞が見られるという環境が要因として考えられるだろう。このように、参仕者が同じ三方楽所であっても、禁裏と江戸ではその上演曲目にそれぞれの特徴がみられた。

舞楽は、左舞と右舞を番にして行うのが一般的であるが、左舞と右舞では曲数が異なることから⁽⁶⁾、番の組み合わせには重複して用いる曲があるのは当然である。江戸時代の楽書である『楽家録』巻三十六「番舞」の項には、番舞の組み合わせが記載されているが、この『楽家録』を著した安倍季尚（1622～1708）は京都方楽人であることから、この内容は京都方の視点によって書かれたものといえるだろう。

その『楽家録』に記載された番舞の組み合わせと、『四天記』、『禁東記』の四天王寺、禁裏での実際の上演における番舞の組み合わせについて比較したところ、『楽家録』と禁裏という同じ京都方を主軸とした場合では似通った組み合わせであるにも関わらず、四天王寺での場合は、『楽家録』や禁裏とは異なった組み合わせであったことが分かった。[出口 2011a:63-69]。しかし、禁裏で行われた番舞は、『楽家録』に記載されている曲目と一致するものの、実際には記載以外の曲も多く番舞として登場していることから、番舞の概念はもう少し幅広いものであるといえるだろう。厳密に言うと、禁裏において固定されていた番舞の組み合わせは、「散手・貴徳」、「陵王・納曾利」の二番のみである。

それに対して四天王寺では、『楽家録』に記載の組み合わせと一致するものはほとんどなく、禁裏で行った番舞とも異なるものであった。つまり、江戸時代の京都方と天王寺方では、番舞は異なっていた、統一されていなかったと考えられる。天王

寺方での番舞は、『四天記』の全期間を通して固定していたのは、「太平楽・狛杵」、「散手・貴徳」、「万歳楽・延喜楽」、「陵王・納曾利」、「甘州・林歌」、「賀殿・地久」、「桃李花・登殿楽」である。これら固定されている曲以外の番舞の組み合わせについてはかなり自由であった。

一方、表3から江戸での曲目をみると、「甘州・林歌」⁽⁷⁾や「打毬楽・狛杵」⁽⁸⁾のように組み合わせ方は限られているものの禁裏での組み合わせ方とは重なるものであった。つまり番舞に関しては、禁裏と江戸という場所の違いはあっても、三方楽所として参仕する場合には、京都方による規範が反映されているといえる。

おわりに

江戸での活動は、四楽家すべてが参仕に携わり、右舞を担う林家と東儀家においては、東儀家のみ家筋によって舞人、管方という役割の区別がみられた。本稿では、貴重な資料であるにも関わらず活用するには困難な『禁東記』を整理し、資料という形で提示するに留まってしまった。今後はさらにこの資料を活用し、天王寺方と紅葉山楽人の関係やその活動内容について、考察を進めていきたいと思う。

註

- (1) 東京・上野にある寛永寺の山号。
- (2) 宝永6年(1709)11月15日[南谷 1993:128]、宝永7年(1710)9月9日[同 1993:131]、正徳4年(1714)9月15日～11月15日[同 1993:146]、享保2年(1717)3月23日～4月15日[同 1993:157]など。
- (3) 「廣富」を祖とする蘭家分家筋。
- (4) 一人もしくは二人によるもので、動きの激しい舞楽。
- (5) 『禁東記』によると、219年間に行われた禁裏での正月行事は約350回にも及ぶが、『八仙』が舞われたのは32回だけである[出口 2011b]。
- (6) 現行では、左舞29曲、右舞24曲。
- (7) 宝永6年(1709)12月9日のみ「甘州・登殿楽」。
- (8) 宝永6年(1709)11月27日のみ「打毬楽・林歌」。

表1 『禁東記』にみる江戸下向一覧

		年代	日付	場所	目的	備考
1	a	貞享3年(1686)	閏3月13日	二之丸	舞楽御上覧目録役附	卯半刻出勤未刻退出御料理アリ
	b		25日		舞楽御上覧	
2	a	宝永6年(1709)	11月27日	植野 _{ママ}	常憲院様御一周忌之節御堂供養舞楽	
	b		29日		万部御法事	二十九日ヨリ十二月八日万部
	c		12月9日		御一周忌御法事舞楽	
	d		10日		舞楽	曲目変更アリ(賀殿・長保楽→迦陵頻)、右方笙の主管について争論あり
3	a	宝永7年(1710)	9月7日	増上寺	清揚院様三十三回御忌御法事	初夜ヨリ十二日晨朝迄万部
	b		13日			
	c		14日			
4	a	正徳元年(1711)	11月3日	白書院前	朝鮮人来聘二付舞楽	高舞台左右楽屋、御料理、楽人45人江戸楽人10人合55人
5	a	正徳2年(1712)	5月7日	御城	敵有院殿三十三回御忌舞楽	舞楽之留次第者別二出之
	b		8日			御成勅額門工入御之時奏平調音取五常楽
6	a	正徳3年(1713)	9月26日	増上寺	御堂供養舞楽	次第出日記ニアリ
	b		10月13日		文昭院様御一周忌舞楽	
	c		14日			
7	a	正徳4年(1714)	10月13日	増上寺	文昭院殿御三回忌舞楽之	
	b		14日			
	c		11月9日	東叡山	常憲院殿御七回忌舞楽之	
	d		10日			
8	a	正徳5年(1715)	4月18日	日光山	東照宮百回御忌御法事舞楽	舞楽人45人菩薩人12人下向、御宮ノ回廊左ノ方ノ前二敷舞臺衣太コ鉦コ左右衣構回廊ノ左ノ方ヲ左右ノ為楽屋ト
	b		19日	日光山	本地堂	場所セバシツリ太コツリ鉦コ用之
9	a	享保2年(1717)	4月14日	増上寺	御堂供養	楽人変更あり
	b		28日		有章院様一回御忌御法事	楽人41人菩薩役12人下向
	c		29日			
10	a	享保3年(1718)	4月29日	増上寺	有章院様三回御忌御法事舞楽	舞人および楽人変更あり、近倫死去
	b		晦日			〃
	c		5月13日	本丸白書院前	舞楽御上覧	高舞台太鼓装束所千畳敷西ノ縁ノ側
	d		10月13日	増上寺	文昭院殿御七回忌御法事	
	e		14日			左方管方に近光、近綱が追加
11	a	延享2年(1745)	3月13日		紅葉山法華八講権現様百三十回忌	舞楽人45人菩薩人南都右方人4人日光楽人20人紅葉山楽人10人、近任所労
	b		15日			十四日、十六日は楽のみ
	c		17日			
	d		3月24日		御上覧	
12	a	明和2年(1765)	4月17日	日光山	東照宮第権現様百五十回御神会	
	b		18日			
	c		19日			舞人、楽人変更あり
	d		5月9日	御城	管絃	楽人人数11人
	e		15日	白書院	舞楽御上覧	貴徳の舞人について争論あり
13	a	文化12年(1815)	4月18日	日光山	御神前御経供養	楽人変更あり
	b		19日	〃	日光山御神忌曼陀羅供舞楽	
	c		5月14日	本丸	御上覧	楽人変更あり

表2 参仕者一覧

◎主管、◆童、●紅葉山楽人、★天王寺方楽人
(迦陵頻・胡蝶については童舞のため、童の印は省略した)

	左方	右方
1-a	振鉾 近家 万歳楽 近家 甘州 近詮 近家 安摩 近詮 近家 太平楽 近詮 近家 陵王 近家	兼溢★ 延喜楽 廣厚★ 廣國★ 林歌 兼溢 廣厚 古鳥蘇 廣厚 廣國 狛梓 廣厚 廣國 納曾利 兼溢 廣國
(管方)	友有◎ 忠晴● 近純◎ 忠賢 高重◎ 景次● 但葛 季尚 近久 基久	廣則◎● 季益◎★ 季永● 兼敦★ 景元◎*1 兼頼★ 廣秀★ 兼伴● 兼正★
1-b	振鉾 但葛 春庭花 近詮 近家 安磨 近詮 近家 散手 近家 太平楽 近詮 近家 陵王 近家	兼溢★ 長保楽 兼溢 廣厚★ 陪臚 廣厚 廣國★ 貴徳 廣國 新鞆鞆 兼溢 廣厚 胡徳楽 廣厚
	1-aと同じ*2	1-aと同じ
2-a	一曲 近量 振鉾 近量 万歳楽 近業 近宣 近量 近倫 打毬楽 近業 近清 近量 近宣 陵王 近倫 栄秋 庸秋 友直◎ 生秋 忠明● 太秋 近茂◎ 忠武 光永 富秋 景豊● 景敏 忠恒 葛伴◎ 葛光 晴起● 行春	兼佐★ 兼佐 延喜楽 兼佐 兼治★ 廣國★ 忠壽 林歌 廣貴★ 兼永★ 廣雄★ 廣經★ 納曾利 兼治 廣雄 廣則● 廣成◎★ 廣房★ 數秋 季永● 季武◎★ 兼富★ 季忠● 兼方● 久富 兼伯◎★ 昌方★ 昌英● 昌喜● 兼伴● 景村*3 忠友
2-c	迦陵頻 近富 倫秋 甘州 近業 近宣 近量 近倫 散手 近清 桃李花 近業 近宣 近量 近倫 栄秋 庸秋◎ 友直 生秋 忠明● 太秋 近茂◎ 忠武 光永 行春 富秋 景豊● 景敏 忠恒 葛伴◎ 葛光 晴起● 太秋	胡蝶 兼里★ 忠本 登殿楽 兼佐★ 廣貴★ 廣國★ 兼永★ 貴徳 廣經★ 林歌 兼佐 廣貴 廣國 兼永 廣則● 忠壽 廣房◎★ 數秋 廣雄★ 忠友 兼伴● 季永◎● 季武★ 兼富★ 季忠● 兼方● 久富 兼伯◎★ 景村 昌方★ 昌英● 兼治★ 廣成★ 昌喜●
2-d	一曲 近量 振鉾 近量 迦陵頻 近富 倫秋 太平楽 近業 近清 近量 近倫 陵王 近宣 栄秋 庸秋 友直◎ 生秋 忠明● 太秋 近茂◎ 忠武 光永 富秋 景豊● 景敏 忠恒 葛伴◎ 葛光 晴起● 行春	兼佐★ 兼佐 胡蝶 兼里★ 忠本 狛梓 兼佐 廣貴★ 廣國★ 廣經★ 納曾利 廣雄 兼永★ 廣則● 廣成◎★ 忠壽 廣房★ 數秋 葛伴 季永● 季武◎★ 季忠● 兼方● 久富 兼伯◎★ 景村 昌方★ 昌英● 昌喜● 兼治★ 兼三 忠友
3-b	振鉾一曲 近家 迦陵頻 倫秋 近富 春庭花 近任 近清 近家 近宣 抜頭 葛伴 栄秋 數秋 友直◎ 晴起● 近茂◎ 忠武 季逸 光永 季業 景豊● 景敏 近貞◎ 葛光 近量 生秋	兼佐★ 兼里★ 兼隆★ 登殿楽 兼治★ 兼秀★ 廣貴★ 廣經★ 還城楽 季矩★ 廣成◎★ 忠壽 廣則● 廣房★ 忠厚 廣音★ 兼伴● 季永● 兼富◎★ 季忠● 兼方● 久富 兼伯◎★ 昌英● 兼太● 昌喜● 昌倫★ 兼村 兼門★
3-c	振鉾一曲 近家 万歳楽 光永 近宣 近家 近任 太平楽 友直 近清 近宣 近貞 陵王 近任 栄秋 數秋 晴起◎● 生秋 近茂◎ 忠武 季逸 景豊● 景敏 葛伴◎ 葛光 近豊 季業	兼佐★ 延喜楽 兼佐 兼秀★ 兼治★ 廣隆★ 狛梓 忠壽 兼秀 廣貴★ 廣經★ 納曾利 廣經 廣則● 廣房◎★ 忠厚 葛伴 季永● 兼當◎★ 季忠● 季矩★ 兼方● 兼門★ 久富 兼伯◎★ 景村 昌英● 兼太● 昌喜● 久矩 昌倫★

	菩薩十式人 天*…兼棟、兼陳、昌方、廣雄 京…久音、忠昆、忠音、庸秋、南…行廣、行家、行祐、行澄	廣成* 廣音*
4	振鉞 近家 三臺塩 近任 近倫 近貞 近家 近業 近宣 央宮楽 近任 近倫 近家 近業 太平楽 近貞 近清 近宣 近光 甘州 近業 近宣 近清 近任 近倫 近光 陵王 近家 栄秋 數秋 庸秋 友直 [○] 晴起 [●] 忠秋 生秋 太秋 近茂 [○] 忠武 季逸 葛光 [○] 景豊 [●] 忠恒 葛伴 倫秋 景利 近量 行厚	兼佐* 長保楽 兼佐 廣貫* 忠音 廣國* 兼陳* 兼秀* 仁和楽 兼治 兼秀 廣房* 廣經* 古鳥蘇 兼佐 廣貫 廣國 兼陳 林歌 兼治 兼秀 廣房 廣經 納曽利 兼佐 廣國 廣為 [○] * 廣則 [●] 忠昆 忠厚 季永 [○] ● 兼棟* 兼當* 季忠 [●] 季矩* 兼方 [●] 兼伯 [○] * 景村 昌英 [●] 兼太 [●] 昌喜 [●] 昌春* 兼伴 [●] 廣成* 忠友
5-a	振鉞 近任 迦陵頻 近富 近泰 五常楽 友直 近清 近任 近光 陵王 近宣 近家 [○] 忠昆 庸秋 晴起 [●] 忠明 [●] 生秋 太秋 近茂 [○] 忠武 季逸 景利 景豊 [●] 葛伴 [○] 倫秋 葛光 近量 景隆	兼佐* 胡蝶 忠本 季任 登殿楽 兼佐 忠壽 兼治* 廣房* 納曽利 兼秀* 廣經* 廣國 ^{八日} * 廣成 ^{七日} * 廣則 [●] 數秋 廣音* 季永 ^{七日} ● 季武 ^{八日} * 兼當* 兼棟* 季忠 [●] 兼方 [●] 久富 景村 [○] 昌英 [●] 昌喜 [●] 昌春* ⁴ 兼伴 [●] 廣貫* 季純
5-b	万歳楽 友直 近清 近任 近光 太平楽 近宣 近清 友直 近光 陵王 近任 5-aに同じ	延喜楽 兼佐* 忠壽 兼治* 兼秀* 古鳥蘇 忠壽 兼秀 廣房* 廣經* 納曽利 兼秀 廣經 還城楽(楽のみか?) 5-aに同じ
6-a	一曲 近任 振鉞 近任 賀殿 近光 近富 近任 近清 迦陵頻 連秋 高房 陵王 近清 安秋 通秋 栄秋 友直 [○] 生秋 忠明 [●] 太秋 季福 忠武 光永 [○] 近量 季純 [●] 近家 [○] 景豊 景武 葛光 晴起 [●] 倫秋	兼佐* 登殿楽 兼佐 忠厚 兼陳* 廣經* 胡蝶 廣陳 忠宣 納曽利 廣房* 兼陳 廣成* 廣則 [●] 數秋 廣貫* 季永 [●] 兼當* 季忠 [●] 季矩* 兼方 [●] 久富 兼伯 [○] * 昌方* 昌英 [●] 昌喜 [●] 昌春* 景隆 兼伴 [●] 廣貫* 兼里*
6-b	一曲 近任 振鉞 近任 甘州 近光 近富 近任 近清 迦陵頻 連秋 高房 太平楽 近光 近緒 近任 近清 安秋 通秋 栄秋 友直 [○] 生秋 忠明 [●] 太秋 季福 忠武 光永 [○] 近量 [○] 近家 [○] 景豊 [●] 景武 倫秋 葛光 晴起 [●] 季純	兼佐* 林歌 兼佐 兼陳* 廣房* 廣經* 胡蝶 廣陳 忠宣 長保楽 兼佐 兼陳 廣房 廣經 廣成* 廣貫* 廣則 [●] 數秋 忠厚 季永 [○] ● 季忠 [●] 季矩* 兼方 [●] 兼里* 久富 兼伯 [○] * 昌方* 昌英 [●] 昌喜 [●] 昌春* 兼伴 [●] 兼當* 景隆
6-c	一曲 近任 振鉞 近任 万歳楽 近光 近緒 近任 近清 打毬楽 近清 近富 近光 近緒 陵王 高房 安秋 通秋 友直 [○] 忠明 [●] 太秋 季福 忠武 光永 [○] 近量 季純 近家 景豊 [●] 景武 倫秋 葛光 晴起 [●] 生秋 ※5	兼佐* 延喜楽 兼佐 兼陳* 廣房* 廣經* 狛梓 廣房 忠厚 兼陳 廣經 納曽利 兼陳 廣經 廣成* 廣則 [●] 數秋 季永 [●] 兼當* 季忠 [●] 季矩* 兼方 [●] 兼里* 久富 兼伯 [○] * 昌方* 昌英 [●] 昌喜 [●] 昌春* 景隆 兼伴 [●] 廣貫* 廣貞*
7-a	一曲 近任 振鉞 近任 甘州 近宣 近富 近任 近光 迦陵頻 正葛 光當 太平楽 近宣 近緒 近倫 近光 安秋 栄秋 晴起 [●] 忠明 [●] 忠友 季福 忠武 光永 [○] 景豊 [●] 景武 忠恒 葛伴 [○] 忠本 葛光 近量 季純	兼佐* 林歌 兼佐 廣雄* 廣房* 廣經* 胡蝶 兼雄 直秋 長保楽 兼佐 廣房 忠壽 廣雄 廣貫 [○] * 廣成* 廣則 [●] 數秋 忠昆 忠厚 季永 [○] 兼當* 季忠 [●] 季矩* 兼方 [●] 兼伯 [○] * 昌英 [●] 昌喜 [●] 昌春* 景隆 兼伴 [●] 昌方* 兼門*

7-b	<p>一曲 近任 振鉞 近任 万歳楽 近宣 近富 近任 近光 打毬楽 近光 近富 近宣 近緒 陵王 近緒</p> <p>安秋 栄秋 近倫[○] 忠明[●] 忠友 季福 忠武 光永 近量[○] 季純 景豊[●] 景武 忠恒 葛伴[○] 葛光 晴起[●] 忠本</p>	<p>兼佐[★] 兼佐 延喜楽 兼佐 廣雄[★] 廣房[★] 廣経[★] 狛杵 忠壽 廣雄 廣房 兼雄[★] 納曾利 兼佐 廣経</p> <p>廣貫[★] 廣成^{○★} 廣則[●] 數秋 忠昆 忠厚 季永[●] 兼當^{○★} 季忠[●] 季矩[★] 兼方[●] 兼伯^{○★} 昌英[●] 昌喜[●] 昌春[★] 兼伴[●] 昌方[★] 景隆</p>
7-c	<p>一曲 近任 振鉞 近任 迦陵頻 正葛 光當 五常楽 近宣 近富 近任 近光 陵王 近緒</p> <p>安秋 栄秋 近倫[○] 季福 忠武 光永 近量[○] 季純 景豊[●] 景武 忠恒 葛伴[○] 忠本 葛光 晴起[●] 忠宣</p>	<p>兼佐[★] 兼佐 胡蝶 兼雄 直秋 登殿楽 兼佐 廣貫[★] 廣國[★] 忠厚 納曾利 兼佐 廣経[★]</p> <p>廣成[★] 忠壽 廣房^{○★} 廣則[★] 數秋 忠昆 季永[●] 兼當^{○★} 季忠[○] 季矩[★] 兼方^{○★} 兼門[★] 兼伯[★] 昌英[●] 昌喜[●] 昌春[★] 景隆 兼伴[●] 廣雄[★] 兼里[★]</p>
7-d	<p>一曲 近任 振鉞 近任 万歳楽 近倫 近富 近任 近宣 太平楽 近宣 近緒 近倫 近光 陵王 近緒</p> <p>安秋 栄秋 晴起[●] 季福 忠武 光永[○] 季純 景豊[●] 景武 忠恒 葛伴[○] 忠本 葛光 近量 忠宣</p>	<p>兼佐[★] 兼佐 延喜楽 兼佐 廣貫[★] 廣國[★] 忠厚 古鳥蘇 廣國 廣経[★] 廣貫 兼雄[★] 納曾利 兼佐 廣経</p> <p>廣成[★] 忠壽 廣房[★] 廣則[●] 數秋 忠昆 季永[●] 兼當^{○★} 季忠[●] 季矩[★] 兼方[●] 兼里[★] 兼門[★] 兼伯^{○★} 昌英[●] 昌喜[●] 昌春[★] 兼伴[●] 廣雄[★] 景隆</p>
8-a	<p>一曲 近任 振鉞 近任 迦陵頻 近卿 友永 高房 季人 太平楽 近倫 近富 近任 近緒 陵王 近緒</p> <p>安秋 栄秋 庸秋 友直[○] 忠武 近業[○] 近純 葛光[○] 景豊[●] 昌方 景武 兼太 忠恒 近寛 晴起[●] 行厚</p>	<p>廣國[★] 廣國 胡蝶 廣基[★] 直秋 昌賀[★] 行矩 古鳥蘇 廣國 忠音 兼陳[★] 兼秀[★] 納曾利 兼秀 廣経[★]</p> <p>廣成[★] 忠壽 廣房^{○★} 數秋 忠昆 兼當^{○★} 季忠[●] 季矩[★] 兼方[●] 兼里[★] 兼伯^{○★} 昌春[★] 景隆 廣貫[★] 廣雄[★] 兼門[★]</p>
8-b	<p>一曲 近任 振鉞 近任 万歳楽 近倫 近富 近任 近緒 打毬楽 近倫 近富 近任 近緒 散手 高房[◆]</p> <p>8-aに同じ</p>	<p>廣國[★] 廣國 延喜楽 廣國 兼秀[★] 兼陳[★] 廣経[★] 狛杵 兼陳 兼秀 忠音 廣経 貴徳 廣基^{◆★}</p> <p>廣成^{○★} 忠壽 廣房[★] 數秋 忠昆 兼當^{○★} 季忠[●] 季矩[★] 兼方[●] 兼門[★] 兼伯^{○★} 昌春[★] 景隆 廣貫[★] 廣雄[★] 兼里[★]</p>
9-a	<p>一曲 近任 振鉞 近任 賀殿 近倫 光當 近任 近宣 迦陵頻 行定 葛英 陵王 近倫</p> <p>安秋 栄秋 近寛[○] 庸秋 忠明[●] 生秋 數秋^{*6} 近詮^{*7} 季福 忠武 近量[○] 近純^{*8} 景豊[●] 葛伴[○] 季逸^{*9} 景武^{*10} 葛光 晴起[●] 近儀^{*11}</p>	<p>廣國[★] 廣國 登殿楽 廣國 廣経[★] 兼陳[★] 兼村[★] 胡蝶 昌香[★] 景行 納曾利 廣経 兼村</p> <p>廣成[★] 忠壽 廣房^{○★} 廣則[●] 忠昆 廣信[●] 季忠[●] 季矩[★] 兼方[●] 兼里[★] 兼門[★] 兼伯^{○★} 昌方[★] 昌英[●] 昌喜[●] 昌春[★] 景隆 季永[●] 景村 廣陳[★]</p>
9-b	<p>一曲 近任 振鉞 近任 甘州 近倫 光當 近任 近宣 打毬楽 甘州と同じ 太平楽 甘州と同じ 安秋 栄秋 近寛[○] 庸秋 忠明[●] 生秋</p>	<p>廣國[★] 廣國 林歌 廣國 廣経[★] 兼陳[★] 兼村[★] 狛杵 廣國 廣経 忠壽 兼村 長保楽 忠壽 廣経 兼陳 兼村</p> <p>廣成^{○★} 廣房[★] 廣則[●] 忠昆 廣陳[★] 廣信[●]</p>

	廣貞 景豊● 行厚	行真 葛伴○	季福 倫秋	忠武 兼高	近量○ 葛光	行廣 晴起●	季忠● 昌方★	季矩○★ 昌英●	兼方● 昌喜●	兼里★ 昌春★	兼門★ 季永●	兼伯○★ 景村	景隆
9-c	一曲 振鉦	近任 近任			近宣			廣國★ 廣國	廣經★ 昌香★	兼陳★ 景行	兼村★		
	万歳楽 迦陵頻 陵王	近倫 行定 近倫	光當 葛英	近任	近宣		延喜楽 胡蝶 納曾利	廣成★ 廣經	兼村				
	9-bに同じ						忠壽 季忠● 昌方★ 廣成★	廣房○★ 季矩★ 昌英● 兼門★	廣則● 兼方● 昌喜●	忠昆 兼里★ 昌春★	廣陳★ 兼伯○★ 景隆	廣信● 景村 季永●	
10-a	一曲 打毬楽	近任 近宣 近清	光當 近泰	近任 近宣	近清 光當		林歌 狛杵	廣雄 廣雄	廣經★※12 廣經※13	兼村★ 兼村	兼雄★ 兼雄		
	安秋 近量○ 行祐	數秋 季純 葛光	庸秋 季任 晴起●	近倫○ 景豊● 行祐(行矩か?)	行真 景武 葛伴○	忠武 葛伴○	廣國★ 廣信● 兼門★ 季永●	廣成○★ 兼當○★ 兼伯○★ 昌方★	忠壽 季忠● 忠音	廣房★ 季矩★ 昌英● 昌隆	廣則★ 兼方● 昌喜●	忠昆 兼里★ 昌喜● 昌春★	
10-b	一曲 振鉦	近任 近任			光當			廣雄★※14 廣雄	廣經★※13	兼村★ 兼村	兼雄★ 兼雄		
	万歳楽 迦陵頻	近宣 葛英	近泰 則長	近任	光當		延喜楽 胡蝶	廣雄 廣基★	廣經★※13 久連	兼村★	兼雄★		
	安秋 近量○ 行祐	數秋 季純 葛光	庸秋 季任 行真※15	晴起● 景豊● 行矩	忠武 景武 葛伴○		廣國★ 季忠● 兼伯★ 季永●	廣成★ 季矩★ 忠音 昌方★	忠壽 兼方● 昌英● 廣信	廣則● 兼里★ 昌喜●	忠昆 兼門★ 昌春★	兼當○★ 景隆	
10-c	振鉦 万歳楽 迦陵頻 散手 太平楽 拔頭 五常楽※16 陵王	近任 近宣 葛英 近任 万歳楽と同じ 葛伴	近泰 則長	近任	光當		延喜楽 胡蝶 貴徳 陪臚 還城楽 白濱※16 納曾利	廣國★ 廣國 廣基★ 廣基◆ 廣經★ 季矩★ 廣國 廣經	廣雄★ 久連	忠壽 兼里★ 昌春★	兼村★ 兼雄★		
	安秋 季純 景武 行真●	數秋 季任 葛伴○ 行矩	庸秋 行厚 行祐	晴起● 行春 行由	忠武 景豊● 葛光	近量○	廣成○★ 季忠● 昌英● 廣信	廣房★ 兼秀★ 兼太●	廣則● 兼方● 昌喜●	忠昆 兼門★ 景隆	廣音★ 兼伯○★ 季永●	兼當○★ 昌名★ 昌方★	
10-d	一曲 振鉦	近任 近任			近光			廣國★ 廣國	兼村★ 兼村	廣雄★ 兼雄★			
	打毬楽 太平楽	近宣 近清 近泰	近宣 近宣	近光 近網	近清		林歌 狛杵 長保楽	廣國★ 林歌と同じ //					
	安秋 忠武 近寛	栄秋 光永○ 近業	數秋 近量 忠宣	庸秋 行厚 行由	友直十三日○ 葛光○ 景豊●	晴起十四日●	廣成○★ 兼當○★ 兼門★ 季永●	廣則● 季忠● 季任	忠昆 季矩★ 兼伯○★ 昌英●	季厚 兼方● 昌喜●	生秋 季純 昌喜●	廣信● 兼里★ 昌春★	
10-e	一曲 振鉦	近任 近任			近清			廣雄★ 廣雄	兼村★	忠厚	兼雄★		
	万歳楽 迦陵頻 陵王	近宣 友永 近清	近泰 則長	近任	近清		延喜楽 胡蝶 納曾利	廣雄 景行 廣雄	兼村★ 忠致 兼村				
	安秋 忠武 葛光○	栄秋 光永○ 景豊●	數秋 近量 近寛	庸秋 行厚 近業	友直十三日○ 近光 近網	晴起十四日●	廣國★ 兼當○★ 兼門★ 季永●	廣成○★ 季忠● 季任	廣則● 季矩★ 兼伯○★ 昌英●	忠昆 兼方● 昌喜●	生秋 季純 昌喜●	直秋 兼里★ 昌春★	

11 - a	振鉞 近雅 ^{*17} 迦陵頻 葛宗 晴秀 近壽 秀康 太平樂 近雅 近教 好葛 寬葛 陵王 則安	廣經 [*] 胡蝶 兼貞 [*] 廣聰 [*] 景規 季有 古鳥蘇 兼村 [*] 忠充 康賢 [*] 廣章 [*] 納曾利 廣經 兼村
11 - b	振鉞 近雅 萬歲樂 寬葛 近教 近雅 則安 打毬樂 寬葛 近教 好葛 則安 散手 近雅	廣經 [*] 延喜樂 廣經 康賢 [*] 兼村 [*] 忠充 拍梓 延喜樂と同じ 貴徳 廣經
11 - c	振鉞 近雅 春庭樂 近雅 則安 好葛 寬葛 迦陵頻 // 陵王 則安 友直 [○] 直秋 忠篤 [●] 晴久 ^{十五} 近光 [○] 季純 季任 倫秋 ^{十五日} 太鼓 葛英 [○] 景貫 忠豊 晴習 近宣 近泰 景國	廣經 [*] 仁和樂 兼村 [*] 忠充 康賢 [*] 廣章 [*] 胡蝶 // 納曾利 廣經 兼村 忠昆 廣音 ^{十三日} [*] 廣泰 ^{十七日} [○] 廣陳 ^{十七日} 太鼓 [*] 廣信 [●] 廣章 ^{十五日} [○] 忠長 ^{十五日} 經鼓 季敦 ^{十三日} [○] 十五日 ^三 鼓 季矩 [*] 兼溥 [●] 兼里 ^{十七日} [○] 忠宣 季通 季昞 [●] 兼貫 [●] 忠致 昌春 ^{十三日} [○] 久長 昌充 ^{十五日} [○] 昌家 ^{十七日} [○] 昌晴 [*] 兼忠 [●] 季矩 [*] 廣泰 [*] 兼倫 [●]
11 - d	振鉞 近雅 萬歲樂 近雅 寬葛 近泰 則安 迦陵頻 太平樂 近雅 近教 好葛 則安 承和樂 好葛 近教 近泰 寬葛 散手 近雅 央宮樂 承和樂と同じ 直秋 忠篤 [●] 晴久 [●] 近宣 [○] 季純 季任 倫秋 葛英 [○] 景貫 忠豊 時習 友直 近光 景國	廣經 [*] 延喜樂 廣經 康賢 [*] 兼村 [*] 忠充 胡蝶 陪臚 廣經 廣陳 [*] 兼里 [*] 康賢 八仙 延喜樂と同じ 貴徳 廣經 胡徳樂 延喜樂と同じ 忠昆 廣音 [*] 廣泰 [*] 廣信 [●] 忠長 廣章 [○] [*] 季矩 [○] [*] 忠宣 季通 季昞 [●] 忠致 昌春 [○] [*] 久長 昌家 [*] 昌晴 [*] 兼忠 [●] 季敦 [○] 兼溥 [●] 兼倫 [●]
12 - a	東遊 近彰 友徳 好近 葛廉 久長 近壽 高弘	蘇利古 忠林 忠任 昌興 [*] 昌清 [*] 廣泰 兼里 [*] 兼玄 [*]
12 - b	一曲 則安 振鉞 則安 迦陵頻 東遊と同じ 太平樂 則宗 高弘 友矩 葛宗 陵王 則宗 敬秋 友永 [○] 須秋 忠致 近壽 [○] 倫秋 景貫 好葛 [○] 寬葛 則長 葛故 時叙	廣統 [*] 廣統 胡蝶 蘇利古と同じ 陪臚 昌家 [*] 昌晴 [*] 廣統 [*] 廣猶 [*] 納曾利 兼村 [*] 廣統 廣泰 [○] [*] 忠幸 廣章 [*] 忠宣 忠郷 兼倫 [●] 久隆 季政 [○] [*] 兼安 [●] 兼玄 [○] [*] 久長 忠豊 昌盛 [*] 忠充 兼備 [●] 兼里 [*] 兼陰 [*] 昌孝 [*]
12 - c ^{*18}	一曲 則安 振鉞 則安 萬歲樂 友矩 高弘 則安 則宗 春庭樂 則宗 高弘 友矩 葛宗 抜頭 葛宗 敬秋 友矩 [○] 須秋 忠致 近壽 [○] 倫秋 景貫 好葛 [○] 寬葛 則長 葛故 時叙	廣統 [*] 廣統 延喜樂 兼村 [*] 久連 定秋 廣基 [*] 白濱 忠充 久連 廣統 廣基 還城樂 康賢 [*] 忠幸 廣章 [○] [*] 兼里 [○] [*] 忠宣 兼陰 [*] 兼倫 [●] 兼貫 [●] 兼玄 [○] [*] 久長 忠豊 昌盛 [*] 昌家 [*] 廣泰 [*] 昌晴 [*] 昌章 [*]
12 - d	管絃 萬歲樂 五常樂 鷹司殿 平松殿 倫秋 越天樂 則安 季康 高弘 合歡塩 鷹司殿 平松殿 倫秋 鶏徳 廣泰 [*] 倫秋 [○] 則長 景貫 則安 近壽 [○] 高弘 季康 廣章 [*] 則宗 季政 [*] 廣章 [○] [*] 則安 季政 [*]	
12 - e	振鉞 則安 賀殿 友矩 葛宗 寬葛 則安 迦陵頻 近彰 友徳 好近 葛廉 散手 則安	廣統 [*] 地久 忠充 兼敦 [*] 廣統 久隆 胡蝶 忠林 忠任 昌興 [*] 昌清 [*] 貴徳 廣統

	太平楽 則安 高弘 友矩 葛宗 打毬楽 則宗 高弘 則安 葛宗 春庭花 友矩 高弘 寛葛 葛宗 陵王 則宗	胡徳楽 忠充 久隆 兼敦* 廣猶* 狛梓 忠郷 兼敦 廣統 久隆 八仙 忠充 久隆 兼敦 廣猶 納曽利 廣統 廣猶
	敬秋 友永 [◎] 忠篤 [●] 須秋 忠致 季康 季有 近壽 [◎] 葛故 [◎] 景貴 好葛 景規 則長 倫秋 時叙	廣泰 [◎] * 忠幸 廣章* 廣聡* 廣頭* 廣周 [●] 兼里 [◎] * 兼村* 忠宣 兼陰* 兼連 [●] 兼倫 [●] 季充 [●] 季政* 兼安 [●] 兼玄 [◎] * 昌充 [●] 久長 忠豊 昌盛* 昌家* 兼備 [●] 景綱 昌通 [●] 季晒 [●] 昌晴* 昌富 [●]
13-a ※19	一曲 近信 振鉦 近義 迦陵頻 近俊 則賢 葛永 近保 太平楽 好古 近兄 葛泰 近満 陵王 近信 廣秋 成久 [●] 近敦 [◎] 季慶 光尚 [◎] 季良 季考 季随 但鬮 [◎] 葛徑 近章 葛起 景富 [●]	廣猶* 廣猶* 胡蝶 文信* 季梁 季誕* 忠以 陪臚 廣好* 廣濟* 昌但* 俊一* 納曽利 廣好* 廣濟 廣勝 [◎] * 久敬 忠之 季政* 忠同 季邦* 廣武* 季蕃 [●] 久視 昌清* 景和 忠勇 昌稠* 昌芳* 俊晒* 昌友 [●]
13-b	万歳楽 近満 近信 好古 近兄 春庭花 好古 近兄 近義 近満 拔頭 葛泰 廣秋 成久 [●] 近信 [◎] 季慶 光尚 [◎] 季良 季考 季随 葛徑 葛起 [◎] 但鬮 近章 景富 [●]	延喜楽 久敬 忠同 忠勇 廣濟* 白濱 // 還城楽 季邑* 廣好* 廣勝* 忠之 俊晒* 季邦* 季蕃 [●] 季城* 俊在* 昌芳* 昌清* 景和 [◎] 倫美* 季政* 昌但* 昌友 [●]
13-c	振鉦 近信 万歳楽 近兄 近信 好古 好文 迦陵頻 近俊 則賢 葛永 近保 拔頭 葛泰 太平楽 近兄 近信 近満 好文 春庭花 葛泰 好文 近義 好古 打毬楽 近満 近兄 近義 好古 陵王 近信 廣秋 成久 [●] 文秋 近敦 [◎] 季慶 光尚 [◎] 季良 季考 季徳 但鬮 [◎] 葛徑 久視 ^{※20} 景富 [●] 近章 葛起 忠彬	廣猶* 廣猶* 延喜楽 廣猶 久敬 廣好* 忠同 胡蝶 文信* 季梁 季誕 忠以 還城楽 季邑* 陪臚 昌但* 文暉* 廣濟* 俊在* 白濱 忠勇 廣濟 忠同 文暉 狛梓 忠勇 忠同 久敬 文暉 納曽利 廣好 廣濟 廣勝 [◎] * 廣綱* 廣胤 [●] 忠之 季政 [◎] * 文仙 [●] 季邦* 季随 季蕃 [●] 季郭* 季城* 元周 昌清 [◎] * 景和 倫美* 昌業* 昌友* 勝恒 [●] 昌芳* 俊晒* 廣栄 [●]

※1 林家本家の出自で、後に京都方の山井家の養子となる

※2 「季尚、景元、兼益、但葛、忠賢、廣秀、季益、廣厚、近純、兼頼、近久、友直、廣國、近詮、近家 以上十五人 宿坊浅草行安寺方丈」

※3 林家本家の出自で、京都方の山井家の養子となる

※4 八日鉦鼓

※5 左方笛の主管 記載なし

※6 元廣貞 ※7 元行真 ※8 元行廣 ※9 元倫秋 ※10 元兼高 ※11 元行厚

※12 廣房が病気につき管方へ変更。替わりに廣雄が舞う

※13 一臈だった廣房が病気につき、廣経が替わりに舞人となる。当初、三臈であった廣雄が一臈、廣瀬経が二臈を務める。

※14 廣房が病気につき不参。替わり廣雄。

※15 近倫死去につき替わりに行真

※16 蠻絵装束で舞う

※17 近任所劣で勤めれず

※18 舞人、楽人変更あり。忠郷→定秋、久隆→久連、季政→康賢、廣猶→廣基、昌孝→昌章、兼安→兼貴

※19 楽人変更あり。近敦→近信、季邑→廣武、季城→久視、倫美→昌稠

※20 楽人変更あり。時全→久視

表3 各法要および行事における曲目

		曲目
1	a	振鉦三節、万歳楽・延喜楽、甘州・林歌、安摩・古鳥蘇、太平楽・狛杵、陵王・納曾利、長慶子
	b	振鉦三節、春庭花・長保楽、安摩・陪臚、散手・貴徳、太平楽・新鞋鞆、陵王・胡徳楽、長慶子
2	a	調子、鳥向楽、一曲 ^{※1} 、音取、胡飲酒、賀殿急、振鉦、万歳楽・延喜楽、打毬楽・林歌、陵王・納曾利 ^{※2} 、長慶子
	b	曲名記載なし
	c	盤沙調調子、鳥向楽、一曲、振鉦、迦陵頻・胡蝶、甘州・登殿楽、散手・貴徳、桃李花・林歌、長慶子
	d	鳥向楽、一曲、五常楽急 ^{※3} 、振鉦、迦陵頻・胡蝶 ^{※4} 、太平楽・狛杵、陵王・納曾利、長慶子 ^{※5}
3	a	
	b	振鉦一曲、迦陵頻・胡蝶、春庭楽・登殿楽、抜頭・還城楽、
	c	振鉦一曲、万歳楽・延喜楽、太平楽・狛杵、陵王・納曾利
4	a	振鉦、三台塩・長保楽、中央楽・仁和楽、太平楽・古鳥蘇、甘州・林歌、陵王・納曾利、長慶子
5	a	振鉦三節、迦陵頻・胡蝶、五常楽・登殿楽、陵王・納曾利、長慶子
	b	五常楽、振鉦、万歳楽・延喜楽、太平楽・古鳥蘇、陵王・納曾利、太食調音取、還城楽 ^{※6} 、長慶子
6	a	一曲、振鉦、賀殿・登殿楽、迦陵頻・胡蝶、陵王・納曾利、長慶子
	b	一曲、振鉦、甘州・林歌、迦陵頻・胡蝶、太平楽・長保楽、長慶子
	c	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、打毬楽・狛杵、陵王・納曾利、長慶子
7	a	一曲、振鉦、甘州・林歌、迦陵頻・胡蝶、太平楽・長保楽、長慶子
	b	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、打毬楽・狛杵、陵王・納曾利、長慶子
	c	一曲、振鉦、迦陵頻・胡蝶、五常楽・登殿楽、陵王・納曾利、長慶子
	d	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、太平楽・古鳥蘇、陵王・納曾利、長慶子
8	a	一曲、振鉦三節、迦陵頻・胡蝶、太平楽・古鳥蘇、陵王・納曾利、長慶子
	b	一曲、振鉦三節、万歳楽・延喜楽、打毬楽・狛杵、散手 [◆] ・貴徳 [◆] 、長慶子
9	a	一曲、振鉦三節、賀殿・登殿楽、迦陵頻・胡蝶、陵王・納曾利、長慶子
	b	一曲、振鉦三節、甘州・林歌、打毬楽・狛杵、太平楽・長保楽、長慶子
	c	一曲、振鉦三節、万歳楽・延喜楽、迦陵頻・胡蝶、陵王・納曾利、長慶子
10	a	一曲、甘州・林歌、打毬楽・狛杵、太平楽・長保楽 ^{※7} 、長慶子
	b	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、迦陵頻・胡蝶、陵王・納曾利 ^{※7} 、長慶子
	c	振鉦、万歳楽・延喜楽、迦陵頻・胡蝶、散手・貴徳 [◆] 、太平楽・陪臚、抜頭・還城楽、五常楽 ^{※8} ・白濱 ^{※8} 、陵王 [◆] ・納曾利
	d	一曲、振鉦、甘州・林歌、打毬楽・狛杵、太平楽・長保楽、長慶子
	e	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、迦陵頻・胡蝶、陵王・納曾利
11	a	振鉦、迦陵頻・胡蝶、太平楽・古鳥蘇、陵王・納曾利、長慶子
	b	振鉦、万歳楽・延喜楽、打毬楽・狛杵、散手・貴徳、長慶子
	c	振鉦、春庭楽・仁和楽、迦陵頻・胡蝶、陵王・納曾利、長慶子
	d	振鉦、万歳楽・延喜楽、迦陵頻・胡蝶、太平楽・陪臚、承和楽、八仙、散手・貴徳、中央楽・胡徳楽、陵王・納曾利、長慶子
12	a	東遊、蘇利古
	b	一曲、振鉦、迦陵頻・胡蝶、太平楽・陪臚、陵王・納曾利、長慶子
	c	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、春庭花・白濱、抜頭・還城楽、長慶子
	d	平調調子三句、万歳楽、五常楽、越天楽、合飲塩、鶏徳
	e	振鉦、賀殿・地久、迦陵頻・胡蝶、散手・貴徳、太平楽・胡徳楽、打毬楽・狛杵、春庭花・八仙、陵王・納曾利、長慶子
13	a	一曲、振鉦、迦陵頻・胡蝶、太平楽・陪臚、陵王・納曾利、長慶子
	b	一曲、振鉦、万歳楽・延喜楽、春庭花・白濱、抜頭・還城楽、長慶子
	c	振鉦、万歳楽・延喜楽、迦陵頻・胡蝶、抜頭・還城楽、太平楽・陪臚、春庭花・白濱、打毬楽・狛杵、陵王・納曾利、長慶子

◆童舞

※1 「雨天故一曲畧之」

※2 「依雨天急斗舞之」

※3 「供華以後振鉦迄ノ間 公方様御成五常楽急」

※4 元々、「賀殿・長保楽」の予定であった

※5 「此間公方様還御」

※6 還御の時

※7 この一番は「抜之」

※8 蠻絵装束で舞う

〈参考文献〉(五十音順)

小川朝子

1998 「近世の幕府儀礼と三方楽所-将軍家法会の舞楽を中心に-」今谷明・高埜利彦(編)『中近世の宗教と国家』東京:岩田書院。

武内恵美子

2006 「紅葉山楽所をめぐる一考察-幕府の法会と礼楽思想の關係性を中心として-」笹谷和比古(編)『公家と武家Ⅲ-王権と儀礼の比較文明的考察-』京都:思文閣出版。

出口実紀

2011a 「江戸時代における高麗楽の伝承-天王寺楽所を中心に-」平成22年度大阪芸術大学大学院博士論文。

2011b 「天王寺方楽家の禁裏における右舞について」『藝術』34:75-83。

西山松之助

1982 『家元の研究』東京:吉川弘文館。

平出久雄(編)

1989 「日本雅楽相承系譜(楽家篇)」平野健次、上山郷祐康、蒲生郷昭(監)

『日本音楽大事典』付表+系図12-33,東京:平凡社。

南谷美保

1992 「『四天王寺楽人林家楽書類』の文献学的研究-江戸時代の雅楽演奏記録として-」『四天王寺国際仏教短期大学部紀要』32:1-56。

〈参考史料〉

『禁裏東武並寺社舞楽之記』 京都大学附属図書館所蔵。

『法事舞楽之記』『四天王寺楽人林家楽書類』第40～第50冊 京都大学附属図書館所蔵。

『四天王寺舞楽之記』(上巻・下巻) 南谷美保 1993 大阪:清文堂出版。

『徳川実紀』『改訂増補 国史大系』東京:吉川弘文館。

『雅楽通解 楽史篇』 芝祐泰 1967 東京:国立音楽大楽出版部。

『楽家録』4 安倍季尚 1690/1935/1977 正宗敦夫(編)『覆刻 日本古典全集』東京:現代思潮社。

『地下家傳』 1844/1978 「覆刻 日本古典全集」東京:現代思潮社。